

# マレーシアに4月新拠点

認定NPO法人の国際医療ボランティアAMD A（本部・岡山北区伊福町）が今年8月、設立30周年を迎える。4月には新拠点となる地域統合事務所をマレーシアの首都クアラルンプールに開設して新たな事業を展開。3法人2団体のグループを統括する菅波茂代表（67）に今後の展望を聞いた。（伊丹友香）

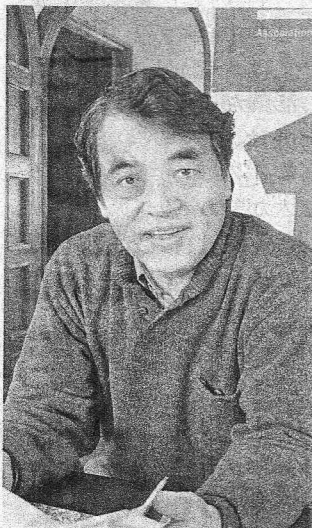
昨年11月に認定NPO法人の理事長職を退いた。4月以降、岡山とクアラルンプールで明確な役割分担をする。岡山では緊急医療支援の調整機能などNPO法人としての活動や国連への政策提言などに軸を置き、クアラルンプールでは海外のローカルNGO（非政府組織）とのネットワーク構築や次世代の人材育成プログラムに力を入れる。

岡山の活動は後任の成沢貴子理事長に支えてもら

い、私自身はクアラルンプールを拠点に各国を飛び回り、現場でプロジェクトに携わる。

マレーシアは華僑を中心とした中国文化、インド系

地域統合事務所をマレーシアに開設する意図は。世界経済の中心が欧米からアジアにシフトしつつある中、アジア、イスラム圏との関わりがますます重要になってくる。「本丸」が岡山であることに変わりはないが、岡山だけでは地理的に限界がある。



移民らのインド文化、国歌

であるイスラム文化が共存する。三つの文化に触れ、それぞれの価値判断を肌で感じる事ができる。この経験は海外で活動する際、パートナーとなる地元団体と関係を築く上で非常に役に立つはずだ。さらにアジアの国際ハブ（拠点）空港があるという利便性も決め手の一つとなった。

この事務所は、学生らを対象にした新しい海外研修プログラム「グローバル人材育成」の拠点となる。国内での事前研修を経て、東南アジアや南西アジアの国々で約1週間、AMD Aの活動に参加してもらう。

AMD Aは多くの人々の善意に支えられてきた。感謝を形に表したいと考えた時、意欲ある若者に知識と経験を積み機会を与えるべきだと思った。われわれはこれまで1人の死傷者も出してない。AMD Aが蓄積した経験と歴史を将来を担う若者たちに還元したい。

AMD A（アムダ） 1984年8月に「多様性の共存」と「相互扶助」の理念に基づき、設立された。災害や紛争発生時、医療・保健衛生分野を中心に緊急人道支援活動を行う。これまで25カ国・地域でさまざまなプロジェクトを展開。このうち緊急医療支援活動は56カ国・地域で計154件に及ぶ。グループには認定NPO法人のほか、AMD Aインターナショナル、NPO法人AMD A社会開発機構（岡山市）、同AMD A国際医療情報センター（東京都、大阪市）、同AMD A国際福祉事業団がある。

時進行できるのが、AMD Aの強み。現在も昨年発生した台風で甚大な被害を受けたフィリピンでの緊急救援活動をはじめ、ハイチ大地震の復興支援などを行っている。国内では東日本震災の被災地・岩手県大槌町での取り組みなどが進行中だ。

今後世界30支部と連携し、AMD Aが築いてきた国際的なネットワークを拡充するとともに、深化させていく。そして相互扶助の理念を広めていきたい。

## 海外NGOと人材育成に力 ネットワーク構築

30周年を迎え、今後の展望は。複数のプロジェクトを同